



PRO-LIFE

胎児を守る運動

中絶に反対する運動

2001年8月 No.130

もうあなたは

独りぼっちじゃない

私も、予期せぬ妊娠におるおるするばかりの今のあなたと全く同じだった。

カウンセリングで最も恐れていた事実を告げられ、胃が縮む思いだった。自分の人生でこれほどゾツとしたことはなかった。まるでこの世の終わりが来たかのような感じがした。

担当医は中絶の費用についての説明の後、すぐに日時を決めた方がいいと言った。あまりのショックに返す言葉もなく、言われるままに従った。後になって誰も他の選択肢について言ってくれなかったことに気付いたが遅すぎた。

欲しかったのは救いの手や情報や、考える時間だったのに、どれも与えられず、家族や友人や医師など、助けてくれるはずの人達ばかり「あなたを選択したのだから」と言っばかりだった。だが周囲が言う「選択」とは中絶だけで、私にはそれしか選ぶようがなかった。誰ひとり、他の選択肢について言ってくれなかった。

「細胞組織の一片にすぎないし、まだ本当の赤ちゃんではない」と周囲は言うが、心の深みでは、赤ちゃんじゃないからと言って、妊娠をなかったことにしてしまつていいものだろうか、と冷静な自分自身が疑問を投げかけていた。

妊娠についてはもちろん、それ以外の事でも親身になって手を貸してくれるような人が、世間にはいると、なぜ誰も教えてくれなかったのだろうか。

私にいろんな権利があると、どうして誰も教えてくれなかったのか。恋人に相談したら「子どもを産むのは君の自由だけど、僕にまで負担かけさせないでくれよ。僕の人生設計の邪魔をしないでほしい。中絶費用は出すけど、それ以外の養育費は出せない」と言われた。私が本当に望んでいたのは、私を愛しているから一緒に子どものことを考えたいという言葉だった。だから、彼の言葉を聞いたとき、どんなに悲しかったこ

とか。父親にも法律的に養育の責任があると知ったのは後になってからだった。

家族にも頼れない。おそらく今のあなたも動揺するあまり、家族にも言えずにいるのではないだろうか。

ほんの一瞬、その子を腕に抱いたらどんなだろう、何て名付けよう、大きくなったら、…、などと想像してもみたが、次の瞬間、やっぱりよそうと思った。もしもタイムマシーンがあったら、この妊娠を状況が異なる未来まで運んでおいてほしい。しかし、それも儂い夢、私は今この悪夢に直面しているのだからと考えていた。

悪夢の解決手段として、私は中絶を選んだが、今日なおそれによつて起こつた悪夢を引きずっている。私の今の知識をもって対処できたらどんなに良かったかと思うが、あの時は無理だった。そこで私は、自分が言ってもらいたかった言葉をこつしてあなた方に伝えることで、自分の赤ちゃんの思い出を讃えたい。

あなたはもう独りぼっちじゃない。あなたには選択肢がある。もしあなたが未婚ならば、子どもの父親に経済的援助の基盤を要求出来る。あなたと同様、父親にも権利と責任がある。あなたが中絶しようとしても、彼の側が裁判

で養育権を申し立てることもできる。

もし相手が養育責任を受け入れようとしなければ、彼と彼の家族に関する情報を、現住所、勤務先と自宅の電話番号、病歴、実家の住所など、できる限り集めておこう。将来、何らかの保護申請をする時や、医師が薬を処方する際などに役立つはずである。そしていつか子どもが大きくなって父親について訊いてきた時の返答も出来るだろう。

もしあなたが既婚ならば、宗教団体の大半が行っているカウンスリングを利用すればよい。残念ながら、父親が中絶費用は出すが子どもを育てるつもりはないと言っている場合は、誰にもあなたに中絶を押しつける権利はない事を思い出してほしい。例えば恋人でも、夫でも。

周りには、あなたと赤ちゃんを助けたいと思っている人はいらぬ。その人に頼り、適切な援助を求めたほうがいい。十分に時間をかけて、あなたにぴったりの選択肢をしてほしい。悪夢から逃れるため、別の悪夢を背負ってしまった私と同じ過ちを繰り返さないために。

米国のちのフェミニスト



宗教の問題ではない

私たちは生命保護の信念に同意しない人たちにどのように回答したらいいだろうか？聖ペテロは、「あなたたちの内にある希望の理由を尋ねる人には、優しく、敬って常に答える準備をせよ。」(ペテロの第一の手紙 三：15)と語っている。

次の中絶賛成派の言い分について考えてみよう。いのちが受精の瞬間から始まるという考えは、全ての人に支持されていない宗教的見解である。自分の宗教的考えを押しつけるべきではない。「私たちの生命保護についての信念は、神への信仰から来るものではないが、私たちは宗教的でない人たちにもきちんと納得のいく回答ができる自信がある。

いのちが始まりは一回し

がなく、中絶の許されている妊娠8週目や14週目まで人間のいのちでなければ、それ以前の死んだものからはいのちは生まれえないに、科学的に過って立証されたことを知っている。本当に知りたいのは、個人のいのちあるいは人間はどの時点で存在することになるのか？人間のいのちはいつスタートするのか？ということである。

人間の卵子と精子が合体して、それ独自の遺伝情報を伴った個人の人間が作られる。医学の世界ではこれを「受精」と呼ぶ。これは科学的事実であり、「宗教的信仰」ではない。つまり、これを信じないということ

解になる。

いのちは連続体である。受精卵、胎児、幼児、子ども、青少年そして成人、これらは全て人間の生命のサイクルの各段階を表している。これらのうち「生きていない」ことを意味する言葉は一つもない。全ての人間は受精の瞬間に存在を始め、生物学上の死を迎えるまでこの生命のサイクルに添って成長する。つまり、その死が受精から80年たつて老衰のために起こるものであっても、中絶のために受精後8週間で起こるものであっても、である。

もし、まだおなかのなかにいる赤ん坊が生物学的に生きていなければ、その肉体的成長をとめるための中絶や母体から取り去る作業は必要ではないのである。

もし、まだおなかのなかにいる赤ん坊の存在が他の人間のように生物学上決定的でないならば、それらを取り除くための殺人(つまりは中絶のこと)は必要ないのである。きつと悪魔

払いで十分はずだ！

現実には、中絶は、子宮内の赤ん坊が生きていて、しかもそれらのいのちが「求められていない」から行われるのである。

いのちの始まりは信仰の問題ではない。むしろ、科学的事実なのである。私は

宗教の教義で「人間のいのちは、父親の精子が母親の卵子と結合する受精の時から始まる。」などと書いてあるものは見たことがない。この見方は生物学の教科書に書いてあることである。卵子や精子や受精に関する私たちの知識は、聖書が書かれた何世紀もあと科



しっかり見つめよう。
いのちのはじまりを！

学的研究によって立証されている。人間のいのちが始まるのが受精時からであるのは、生物学的事実なのである。これを「宗教的信仰」と呼ぶのは、生物学を宗教だと言っていることになる。

宗教と道徳は、人間が肉体的にいつから存在するかという科学的現実を決定することはしない。しかし、宗教と道徳は、人間が肉体的存在をしてから、どのように扱われるべきなのか(貧しい者に食べ物を与え、弱い者を守るなど)については大きな発言力を持っている。

放置された赤ん坊

中絶手術をした赤ん坊が息を引き取るところを病院スタッフが見守っている中、その赤ん坊は手術後80分間生き続けたことをオーストラリアのダーウインにある裁判所で告げられた。

妊娠21週から22週で中絶されたその赤ん坊は、予想外にも生きて産まれてきた。グレッジ・キャバナー検死官は、早産のため赤ん坊が生き延びる可能性がないことは認められたものの、担当していた看護婦は、『道徳的ジレンマ』に陥っていたと述べた。最後に彼女は、赤ん坊が最も心地良くなれるようにそつとシーツを掛け、亡くなるのを静かに見守っていたと証言した。

である可能性が指摘されたため、23週になるかならないかの赤ん坊がバーミンガム・シテイ病院で中絶された。その後、赤ん坊は2時間生き続けた。

中絶の限界である24週より前に早産した赤ん坊が生き延びることも希にある。一般的に医師は22週を、生存に最低限必要な日数と考えている。しかし、早産した赤ん坊は呼吸するために保育器などの補助が必要であり、健康者として生きる可能性が低いと医師が判断した場合はそのような措置をとらない事もある。

早期に人工的に出産させたことが原因で赤ん坊が亡くなったことを知ったオーストラリア人検死官は、中絶を切り抜けた赤ん坊が適切に扱われていない事を記録するよう病院に促した。(ナイジェル・ホークス)

中国の昔話

ある日、父親は寝たきりの年老いた母親を見捨てることに決めます。彼は息子におばあちゃんを手押し車に乗せて、森へ連れていきそこに捨ててくるように命じます。従順な息子は従い、おばあちゃんを森へ連れていき、置き去りにして帰ってきます。父親は息子が手押し車を

持って帰ってきたことを知り、どうして手押し車をおばあちゃんと一緒に森のなかに置いてこなかったのかと尋ねます。息子は、父親を森のなかに連れていく時のために手押し車を取っておい

たほうが賢明だと思ったと答えます。この話の教訓は安楽死と関係がありません。もし人間



の価値が社会に対する貢献という尺度だけで測られる

ず、自分でしましよう。

「あなたは重荷じゃないよ」 「苦勞をかけるね」

なら、絶えず人の介護を必要としている人々は、他の人々にとつてお荷物ということになります。何といつても、私たちは限られた資源の世界に實際生きています。たとえば、ナチス・ドイツの子どもたちは、社会にとつて金銭的重荷となつている人々を殺すことで、どのくらい多くのお金やパンやジャムや他の必需品が節約できるかを示すグラフを勉強しなければなりませんでした。

昔は安楽死が蔓延していましたが、美しいのちの神聖さが認められなければ、老人や障害者を持った人々や病人にとつて安楽死は深刻な脅威となりうるでしょう。いのちの神聖さの確認を他人に頼らず、自分でしましよう。

三三〇四八人の日本人自殺

過去最高

日本の会社での経営職を務めるのは決してた易いことではない。いわゆるサラリーマンと呼ばれる人々の辛い人生は活字に残され嘲笑われてきた。しかしながら、10年にも及ぶ不況を経た今、事態は大変深刻になりつつある。今週、日本政府は増加傾向にある経営職層の自殺を何とか食い止めるために、約三億五千八百万円を投入する事を検討中である事を明らかにした。

自殺は殊勝な行為であるという考え方が常に究極の「ゴールデン・パラシュート」戦いの場から降りる絶好の手段」として見受けられる。この国では、日本のビジネスマンは、首を吊り、電車の前方に飛び込み、古来からの日本の慣例的な自殺手段に

従って、時には割腹自殺までしている。昨年は過去最高の三三〇四八人が自らのいのちを絶った。勿論すべての人が企業戦士と言う訳ではないが、その中には政府がこの事態に一步踏み込んで調査を行なうという結論に至るのに十分なだけの管理職や従業員が含まれていたのである。

なぜ日本の会社の経営職層が、仕事上の苦悩に対して究極的な解決策を好むのかを理解するのに、それほど時間はかからない。日本人ビジネスマンとしての生活も、西欧の経営陣同様、ストレスが溜り苛立ちも多い。ただ西欧と違うのは、その見返りがほとんどないという点である。アメリカやヨーロッパのトップクラス

の最高経営責任者たちは、在職中は株によるボーナスを受取ったり、私用のジェット機を持つ事ができる上、円満な引退後も企業の経営陣の一員として残り、その窮状を和らげることが可能である。しかし一方、平凡な日本の経営者は、少額の給与と社用車によりかろうじて成功を手にかけている程度にすぎない。そしてその後待っているのは、引退にあたり、ほとんど何も恩恵はない。

日本企業の世界に深くはまればはまるほど問題はより複雑になる。終身雇用制度とその結果として存在する関連会社というしっかりとした受け皿の存在を前提に、大部分の日本人経営職層は、各会社の内側で支配権を握るために肥大した社内内領

地争いとも言える消耗戦にさらされているとしか言いようのない雇用期間の延長を付与されるのである。もしアメリカ型の会社間競争が高度技術を駆使した外科手術的なものであるとすれば、日本人の経営層は、第一次世界大戦中におけるヨーロッパでの塹壕戦を戦ったような精神的に疲れきった状態に直面していると言える。西欧社会での企業間競争は、多くの犠牲を伴って、熾烈ではあるが、短期間で終結する。そのプロセスが非常に素早く行われるため、そこで職を失った企業戦士たちの立ち直りも早く、再就職先を即座に得ることができ、アメリカの会社のリストラ努力が数ヶ月間で決着するものとして認識されているのに対して、日本のリストラは何年もたらだらと続くのである。

経済状況が良い時は、日本でもそこそこの経済的平和を維持するのに十分な企業の繁栄はある。しかし、経済環境が悪い時には会社内のプレッシャーは耐え難いものにな

る。西欧型の流動的な人材市場が存在しないので、日本の労働者は、その人自身の派閥や上司が出世レースに敗北してしまつと、次のキャリアへの準備を全くしないままに、ある日突然早期退職を勧告されるといふ運命の日を待ちながら、会社内に留まっている。技能や、これといった職業上の展望がないため、単なる「おじさん」として年を重ね、家では妻に邪魔者扱いされ、擦り切れたスリッパを引きづり、次に何をすればよいかを考えながら、無気力な失業と言つ惨めな状態に直面している。もしこの状態で首吊りの紐や迫り来る電車がとつともなく魅力的な選択肢に見えてしまつたとしたら、それこそ残念なことである。ピーター・マクキロップ



昨日と今日

お母さんへ

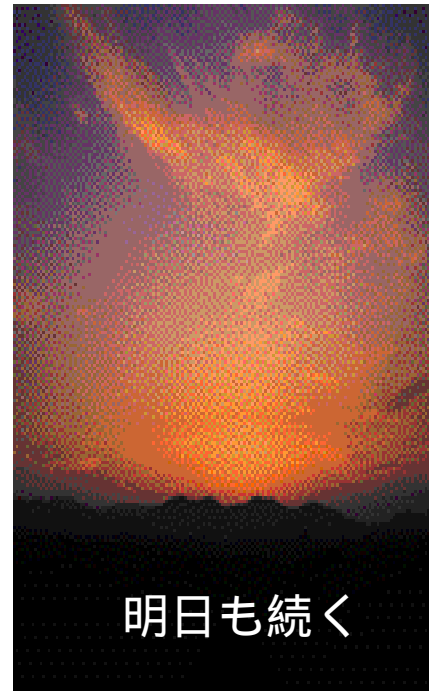
昨日、私達は手をつないで中絶クリニックへ入って行った。

あなたは椅子に座りながら、すべてうまくいくから大丈夫、と私の耳に囁いた。

あなたが、赤ちゃんを中絶するのは正しい事、と言った。他の大勢の女の子達といっしょに待合室に座っていた時、あなたは私の将来について話した。私が大学へ行く事、大学がどんなに楽しい所か、沢山のパーティーと沢山の友達の事。あなたは私の将来について、私の就職について、未来の夫との出会い、そしてもっと子どもを作る事を話した。

あなたが私の手を取り、私達がしている事は正しい事と言った。「私達の」小さな問題が片付きさえすれば、私は後悔する事なく、あなたが私の為にしてくれた、明るく素晴らしい未来へのレールの上を歩いていけると。

お母さん、あなたは私の沈黙に耳を傾けてはくれなかった！



今日、あなたが、もう何の心配もなく、もう何の恥ずかしい思いもなく眠っている今、私は、私が初めてあなたに妊娠した事を告げた時に、あなたが私に言った事を思い出しながら、この手紙を書いている。

私はあなたの目の中に見えた失望感を思い出す。

この手紙を書きながら、私が自分の赤ちゃんに対して、本当はどういう気持ちでいたかをあなたに伝える勇気があったらよかったと思っている。お母さん、妊娠したと初めてわかった時、私は自分の将来がどうなるのか不安だった。でも同時に私は、喜びも感じたの。お母さんならその喜びがわかるでしょう。初めて私を身ごもったとわかった時、同じように感じたでしょう。

私がまだ十代だからといって、赤ちゃんへの、あの母性愛を感じないとでも思ったの？私は感じたわ！それを私が口にしなかったのは、お母さんが赤ちゃんを中絶しようと決めてしまっていたし、赤ちゃんが欲しいなどと今さら言い出すのが怖かったから。それに又お母さんの望まない事をして、これ以上お母さんをがっかりさせたくなかったの。私が何もかも忘れ、すべてが妊娠する前と全く同じに戻るというお母さんの言葉を私は信じたわ。

お母さん、あなたがどんなに私を愛してくれていても、私の赤ちゃんがあなたにとって恥ずかしいものだったという事はわかっているわ。だから私達はお父さんにも言えず、他の家族にも言えず、お母さんは中絶を選んだのよね。

あなたの判断が間違っていたとわかった。私は心が空っぽで、寂しい。喜びなんてちっとも感じない。私の赤ちゃんは死んだのだから！

お母さん、あなたは幸せそうに眠っていて、私はちっとも眠れない。お母さんの問題は解決したけれど、私の問題は始まったばかり。

この先ずっと、昨日を後悔するだろう。何故なら昨日、私の赤ちゃんは殺されてしまったのだし、これから赤ちゃんの事を考えない明日も、「もし...」と考えない明日も、ありえないのだから。

あなたの娘、 ローリー・ワイドマン

コンドームは 危ない!

世界中に蔓延しているAIDSの研究者達の間で、この伝染病の予防対策としてのコンドームの安全性が過大評価されているという意見が高まりつつある。性交渉によって伝染すると言われているAIDSを含めたすべての伝染病に対してコンドームがもつとも安全な予防対策であると教えている近代教育は、結果として逆にAIDSを広めつつある。原因は明白である。実際は安全とはほど遠いにも関わらず、予防策が与えられたことによって民衆の性交渉に対する躊躇が失われ、この避妊方法の実態が正確に伝えられていけばこれほどまでにはならないであろうと思われるほどの盛んさで乱れた性生活が持たれることになったからである。

米国食品・薬品局が五万個のコンドームに対して行った最近の調査によると、五十個のうち一個に液漏れ審査の基準に満たないものが発見されたという。特に輸入製品にこの不良品が多く発見された。

一九八七年にマイアミ大学のマーガレット・フィスカル教授がAIDSに感染した患者が一人いる家族についての研究結果を発表したところによると、コンドームを使用していたにも関わらず、十八ヶ月以内に十八人中三人の男性の性交渉の相手がHIVウイルスに感

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文.....無料..... + 郵送料

染していたという。この報告は第三回AIDS国際会議の場で発表されている。

『ニューイングランド医療情報誌』の週報(VOL 37, No 9)では「コンドームと性的伝染病の予防」と題してこの会議で公表されたデータの概要が掲載された。その記事に、以下のような記載がある。「HIVに感染するおそれがある、またはHIVに感染している人は、コンドームの使用はウイルスに感染する、または相手を感染させてしまう危険性を減ずるものではないということに注目すべきである。」

billings 6/97

辛いのは女性だけ

中絶は絶対良くないことだと思った。赤ちゃんがびんのなかに入れられていたり、そのまま放つて置かれて、死んでいて、すごく残酷だと思った。それに母親の気持ちも、最後の方に出ていた女の人の悲しそうな表情から、その辛さがとても良く伝わった。やっぱり、辛い思いをするのは女性だけだと思った。理由はそれぞれにあるだろうけど、自分の中に新しい生命があるのに、その生命を生まれる前に消してしまふんだから、相当の辛さだと思った。私自身中絶をするような事には、絶対ならないようにしたいと思う。

N・M・M・高三生

[511] **赤ちゃん: 最初の十ヶ月の旅**

[515] **経口避妊薬: ピル**

注文:	1 - - - - - 5	1部 = ¥ 100
	6 - - - - - 20	1部 = ¥ 75
フルカラー	21 - - - 999	1部 = ¥ 50
	1000 - - 以上	1部 = ¥ 35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

(本) フマネ・ヴィテ

1 ~ ~ 30	1部 = 250円
31 ~ ~ 100	1部 = 200円
101 ~ ~ 以上	1部 = 150円

パンフレット押し込み

1 ~ ~ 5	1部 = 35円
6 ~ ~ 100	1部 = 25円
101 ~ ~ 500	1部 = 20円
501 ~ ~ 以上	1部 = 15円

組み合わせ
は自由です

十代の性

(15)

質問：人は自由に同性愛をする権利があると思います。個人の選択なのだから、権利があるとか悪いとか、他人が非難すべきではないと思います。『人生におけるひとつの選択』にすぎないのではないのでしょうか。

反する、根本的に善くない行為です。時代の流れもあり、物わがりのいい人間が増えた昨今では、残念なことに、善悪の観念すら鈍ってきています。「私って生まれつきこうなの」とか「幼児期の体験がトラウマになって」とか免罪符のような言い訳で、自分の行為の責任転嫁が許されてしまっているのです。

1 人と行動を安易に結びつけない

育児にあたって親は、子ども本人とその子がした行動を区別して考えることが大切です。いい子なのに乱暴な悪さをすることもありません。愛される、人なつっこい人間に育てるために、悪い行為を注意しながらも、その子を人間として愛し続けましょう。同様に、同性愛者を非難するのもやめましょう。行為自体は悪いのに、正しいと認めてしまふのは、かえって差別になります。理想的な方向に進めるよう周囲の環境を整え、その人自身に改めさせるようしむけるのがよいでしょう。

2 人生の選択肢のひとつ

同性愛が昨今、受け入れられつつある背景に、社会における男女の区別があいまいになっていることがあります。あらゆる場面において男女が同様に扱われると、なぜ結婚だけ異性としなければいけないのか疑問に感じておかしくありません。でも、男と女は本来、肉体・感情・心理・精神的に異なる資質が与えられているのです。男と女は尊厳の面でも全く同等で、男性と同様の敬意が払われるべきなのです。けれど、人生における役割の面では異なります。男と女という異なる個性が一緒になり、家族の基本形が形成され、双方補いあって完成するのです。だから、父親がどんなに努力しても完全に母親がわりをすることはできないし、母親が完全に父親の穴埋めをすることもできません。同性愛カップル「人生の選択肢のひとつ」と社会が認めてしまったらどうなるでしょう。男・夫・父の役割や、女・妻・母の役割を誰が実践し次世代に伝えていくのでしょうか。個人・家庭・社会全体に人格の崩壊、不調和、混乱が生じるでしょう。



答え：同性愛が個人の選択、そうでしょうか？例えば、牛や死体とのセックスを望む人がいるとします。こうした行為には性逸脱者と色眼鏡で見られてきました。逸脱とは正しい、自然な、本当の方向から外れること、つまり不適切な用法をさします。セックスの目的やそこにおける真実をつきつめると、何がよくて何がよくないかは明らかです。同性愛は、生命創造という自然の摂理に

日本プロ・ライフ・ムーブメント事務所

〒780-0062 高知市新本町一丁目7-31

電話/Fax 088-873-3619

e-mail: prolife@i-kochi.or.jp

For English Speaking People /evening: Tel/Fax: 088-843-0406 Email: nvt56n@ps.inforiyoma.or.jp

会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円

一万円 五千元 一千元

無料: 毎月プロ・ライフ・ニュースレター

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さい命を大切に育みましょう。

事務所時間:

月-金	10:00 - 17:00
土曜日	休み
日曜日	休み

御送金

銀行: 四国銀行朝倉支店
口座番号: 0573553
日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局: 「郵便振替」
現在口座番号: 01660-5-39607
日本プロ・ライフ・ムーブメント

事務所便り

大阪教育大付属小学校での事件に日本中が身震いしました。8人のあどけない子どもたちの将来と夢が一瞬の間に奪い去られ、怒りが込み上げて来ます。もはや小さな子どもたちの安全はどこにいても保障できないようになってしまっています。ユタヤ人大虐殺が行われたドイツの生命教育は徹底しているように思われますが、日本でも、いのちの大切さを人々の心に染込ませる教育をもっと強く行わなければなりません。

日本プロ・ライフ・ムーブメントではいのちの教育をおこなって、今まで毎月、ニュースレターを発送し続けてきましたが、この度、インターネット上にホームページも開きました。どうぞ皆様、気軽に立ち寄って下さい。アドレスは、<http://www.japan-lifeissues.net>です。それは、Current Newsと記事とセクシヨンの大きく三部に分かれています。セクシヨンはまた、人工妊娠中絶、バイオエシックス、避妊、生命、パストラル、人口、中絶後のいやし、関連する社会問題の8つに分かれています。それぞれのセクシヨンではその問題に関する有識者の意見を集めて、皆様がこのを訪ねて下さるのを待っています。

6月に放映されたNHKのテレビ番組、『ゆうゆう』を見ました。ある女性が、自らの卵子の冷凍保存について『余剰』胚と言われることに疑問を投げかけていました。授精が行われていけば、今ここにいる子どもと同じいのち。でも、選ばれず、将来のためにと冷凍保存されたいのちを『余剰』という。いのちに『余剰』があるのでしょうか？

最後に、小さないのちのために皆様の暖かい献金をどうぞお願い申し上げます。

熱帯夜の眠れない日、御自愛下さいませ。